

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和別所小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学校全体として、知識・技能の定着が図れた。全体同年代比較を平均正答率で見ると市の平均を上回っているものの、実際には個々の課題は様々であり、個別に必要な支援を講じていく必要がある。そこで、引き続き「スタディ・サブリ」「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていく。また、次年度の目標としては、国語の「主語・述語の関係の正しい理解に全体として課題があることから、「話すこと・聞くこと」を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査で検証していく。
思考・判断・表現	R6年度の調査において、前年度の課題であった無解答(白紙のまま)率が改善傾向にある。R7年度も各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していく。また、根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問うなど、資料の見方についても引き続き重視していく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語の主語・述語の関係の正しい理解に課題がみられた。<指導上の課題>全体として知識・技能の定着が図れているが個人差が大きく、個別支援が必要である。	⇒ 「スタディ・サブリ」「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に生かしていく。【毎単元の実施】その際児童の学習履歴を確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する。【月に1度の実施】児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。振り返りを踏まえ、児童とともに必要感のある課題を設定する。【毎時間設定】
思考・判断・表現	<学習上の課題>概ねよく解答できている項目であった一方で、無解答(白紙のまま)率が高い。<指導上の課題>児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問う。【関係単元】児童が作品・レポートに取り組み際、評価の観点を示した上で評価する。【毎回実施】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	毎単元実施した「スタディ・サブリ」「ドリルパーク」等の反復練習、漢字や計算の反復練習が習慣化し、個別に蓄積されたデータを効果的に生かしていくことができた。また、児童の学習履歴を確認するなど、ICT機器を活用した学びを実践することができた。授業では、児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにすることができた。振り返りを踏まえ、児童とともに必要感のある課題を設定することができた。
思考・判断・表現	A	根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問う活動を継続したことで、全国学力・学習状況調査において昨年度と比較しても同項目の無解答率が9.6%から1.8%に改善した。児童が作品・レポートに取り組み際には、評価の観点を示した上で評価することができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数のすべての問題で、全国平均正答率を上回っていた。国語「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題の正答率が5.1%、無解答率が10.2%と課題がみられた。日常的に既習事項を活用して、文字や文章を書くことを意識した学習指導を今後も継続していく。算数「数量の関係、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる」問題の正答率が93.4%、無解答率が1.2%であった。正答率は高いが、無解答率は全国平均の0.3%よりも高い等、課題がみられた。
思考・判断・表現	国語・算数のすべての問題で、全国平均正答率を上回っていた。しかし、国語「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」記述式の問題の正答率が57.5%であった。同問題は令和5年度も課題のみだった問題であったが無解答率は9.6%から1.8%に改善した。算数「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」記述式の問題の正答率が40.1%、無解答率が2.4%と課題がみられた。共通事項として、自分の考えやその理由を記述形式で解答する問題の正答率が低い傾向がみられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	調査対象の全学年が、ほぼ全ての項目で市の平均を大きく(3ポイント以上)上回っていた。6年生の国語では「話すこと・聞くこと」における話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすること、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことに課題が見られた。日常的に既習事項を活用して、文字や文章を書くことを意識した学習指導を今後も継続していく。教科への興味関心については、国算算理の肯定的な回答の割合が高い傾向が見られた。
思考・判断・表現	5年生では、理科「生命」を柱とする領域の平均正答率、6年生では、理科「地球」を柱とする領域の平均正答率が比較的低い傾向にあった。全体同年代比較で見ると市の平均を上回っているものの、同領域の異集団比較においては昨年度の結果を一部下回った。観察、実験などを行った後に適切な方法であったかを確認する活動が不足していることが考えられる。同じ実験を行ったにもかかわらず他のグループと違う結果になった場合や、実験を複数回行ったときにばらつきが生じた場合にその要因を見だし、実験の方法を検討し、必要に応じて改善する学習活動を増やしていきたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	全国学力・学習状況調査において、平均値で国語はおよそ10ポイント以上、算数は13ポイント以上上回っていた。平均値は高いが無解答の児童もみられた。蓄積されたデータを効果的に活かしたことで課題の見える児童に対して適切な支援が行えた。	変更なし
思考・判断・表現	A	根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くために、グラフ等の資料を用いる際、「誰が」「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問う活動を継続したことで、全国学力・学習状況調査において同項目の無解答率が9.6%から1.8%に改善した。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)